

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370103453		
法人名	社会福祉法人 夕凧会		
事業所名	グループホーム 夕なぎの家		
所在地	岡山市東区宿毛745-3		
自己評価作成日	平成23年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成23年2月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな田園風景をどこからでも見渡せ開放的で明るいグループホームです。屋上菜園では立派なジャガイモやさつま芋がごろごろ取れます。お一人おひとりの思いを大切に、その人らしく元気で穏やかに過ごして頂ける様支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が社会福祉法人であるが、大きな組織にありがちな苦しさがなく、グループホームの本来の姿を大切に施設運営が実践されていました。田園に囲まれたビルの4階であることを活かし、さわやかな風を感じる事の出来る施設です。この空間だからこそ、出来るケア、のんびりとした時間の流れを管理者、職員が一生懸命演出したケアに取り組まれていました。家族的な認知症ケアをスタッフ全員が共有し、心豊かさが随所に感じられました。やりがいのある職場環境が整備され、代表者、管理者、介護職員の認知症ケアに対する思いのこもった支援が窺えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所の見やすい所に掲示しており、職員間で共有、実践している。	理念を掘り下げ、話し合い具体的な目標を掲げ、理念を踏まえた実践が窺えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、文化祭、敬老会、セラピードッグ、絵手紙クラブ、外出等で地域の方とのふれあいがある。	関連施設全体で実施される行事にも積極的に参加されていました。セラピードッグも近隣の方々の協力により2005年より実施しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広域に、介護に困って緊急性のある方は、満床でない限り入所に向けて話し合いを進める。介護の電話相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会は今年度開けていない。	運営推進会議が出来ていないようですが、開催できるように各方面には、声かけ、アプローチをされ開催に向けた努力はされておられました。	まず出来ることか取り組まれ、少人数かでも良いから開催してください。まずは、実践に期待いたします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修や運営上の困っている事、わからない事は市の指導担当者に、積極的に問い合わせ指導していただいている。	地域包括支援センターの協力によりグループホーム連絡協議会等積極的に関係を働きかけ、指導、勉強会に取り組まれ、行政との関係も良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロのハンドブックを各自持ち、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ケア従事者のための身体拘束ゼロハンドブック「拘束のないケアを実現するため」を使用した研修もされ身体拘束をしないケアに取り組まれていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修等を通じて虐待の防止や、虐待が見過ごされる事がない様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護福祉士2名が学ぶ機会があったが活用はされていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の段階では、十分な時間をとり説明し、理解納得をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、面会時、電話連絡時に御意見、御要望等いただき、申し送りや職員会議で取り上げ、運営に反映させている。	家族等が職員に意見、不満、要望などを出していただけるよう意見箱も設置していますが、直接的な声かけを大切にしたい取り組みに力をいれていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見や提案はいつでも受け、職員会議等の機会に取り上げみんなで話し合っている。代表者が出席するときもある。	年度計画、研修委員会、感染対策委員会、身体拘束、事故防止などに関しても職員意見を取り入れられているようです。特に勤務体制においては、利用者へのダメージを最小にしたいとの職員の思いが反映された取り組みがなされていました。	安定した職員による運営は、時としてマンネリ化することがあります。常に新人の気持ちで取り組まれる事を望みます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、働きやすい職場作りに協力してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在キャリアパス導入準備段階である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西大寺地域包括支援センターの声かけにより、グループホーム連絡会が出来て勉強会に参加し、運営に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傍に寄り添い傾聴し、不安を取り除いて信頼を得られるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や御要望等をお聞きし、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、御家族にとって今必要な支援が何なのかを見極め、真摯に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人が何が出来るか、どう支援すれば出来るかを全職員が協議し、関わって行く様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人がタナギの家で、ゆったりと安心して過していただく為に御家族の積極的な意見を引き出しケアに取り入れ、御家族の安心を得る様努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人の混乱を招かないよう、なじみの顔で馴染みの場所でなじみの生活を送れる様、努力している。	馴染みの理美容の方から利用はないかとの声掛けがあるなど、自然な交流が出来るような配慮が窺えました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お手伝い、レク、外出等を通じて、助け合い喜びを分かち合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	諸事情により、退所の意向が御家族からあった時次の施設に話を繋げている。今でもおたよりが届いたり、面会に行くことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に全職員でカンファレンスを行い、本人本位のケアが行える様努めている。	慣れた職員と、気づきのケアの実践から、一人ひとりの思い、意向の把握に努められていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族の話や以前のサービス利用の経過把握から、以前の生活と大きく変わらないような支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎食時の残量、バイタルチェック、介護記録、申し送り、御本人との会話等を参考に現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、御家族、主治医、の意見を取り入れ、全職員で話し合い作成している。	日々の介護日誌の記録、主治医の意見を参考にして、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に気づきを大切にし、その情報は職員間で共有し、カンファレンス、介護計画の見直し、とつなげていくよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や御家族のあらゆる状況から生まれるニーズには、柔軟な支援を行い、真摯に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な範囲で地域とのかかわりが持てるよう支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族の協力もあり、かかりつけ医との連携がとれている。	基本的に家族支援により受診をされています、日常生活の情報提供し、家族と連携を取りながらの受診支援が窺えました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同棟の看護師の協力や指示が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、職員が同伴し、情報交換がある。常に各病院のソーシャルワーカーと、空き状況や入居者様の情報などの連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアの取り組みが1例あり、市の指導担当の意見に従った。	本人・家族の強い要望から、市職員と連携しながら看取りを経験されていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員、救命救急の研修を済ませているが実践はなく、救急車要請は1例あった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定しての避難訓練を2回行っている。地域の消防団の協力も得られる。	地域の消防団、併設の福祉施設と協力して訓練を実施している。夜間を想定しての訓練も実施されていました。	災害は何時発生するか予想できませんが、予防は出来ます、発生を想定した訓練に加え、特に火災を起こさないことへの努力に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の問いかけには、立ち止まって笑顔で対応する、という今年度の取り組みがあり、加えて否定しない、説得しない、傾聴と受容のケアに努めている。	残存機能を大切にし、見守りから生まれる思いやり、1人ひとりの人間性を否定しない対応が窺えました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	拒否も含めて入居者様の思いや言葉、しぐさを大切にし、尊厳をお守りするケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、安心、安全に暮していただけるよう、穏やかに過ごしていただける様支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所以前の生活習慣、趣味、嗜好などを大切にし、変更をせざるを得ない場合は、入居者様に協力を仰ぐようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の出来ることを準備や片付けに取り入れ、共同生活が楽しくなるような支援に努めている。	季節感のある食事作りに取り組みまれていました。祭り寿司、屋外での食事会、毎月1日は赤飯等、食事の準備、後片付け、食器運びも1日の大切な活動として取り組まれていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアハウスの栄養士の意見などを参考に、一人ひとりにあった栄養摂取、水分量確保ができる様な支援につとめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後の口腔ケアがまだ徹底されていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おしめの方は日勤帯はリハパンにし、排泄のパターンに添って排泄支援ができるよう、自立に向けた取り組みを行っている。	自然な排泄支援を重点目標に置き、目配り、気配りを大切にしたいトイレ排泄支援が実践されていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リハビリ体操や繊維質を含むおやつなど、工夫している。主治医処方の下剤も服用されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2～3回であるが、御希望に応じて柔軟な支援ができる様努めている。	入浴困難な方に対しては、本人の習慣を家族からお聞きするなどの連携を取りながら、柔軟な入浴支援が実践されていまいた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の生活習慣を尊重した、休息や就寝時間が持てるよう支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服用については、主治医、御家族、御本人の意見、御意向などを大切に、細心の注意をはらって服用を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に1回の外出とクラブ活動、屋上庭園での作業、散歩やおやつ作りの手伝いなど、楽しみごとの支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋上庭園や敷地内の散歩などご希望によって戸外にでかけられる。御希望の遠隔地は御家族の協力をお願いしている。	年間外出計画により季節ごとの外出支援がなされていました。遠隔地への外出支援は家族に協力をお願いするなどの、協力体制が出来ていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が自由になる入居者様が1名おられるが、後の入居者様は管理されていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話や手紙のやり取りができるよう、支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的で明るく、季節感のある空間作りに努めている。	太陽をいつばい背中に受ける位置にソファが置かれ、広いガラス窓からの外の眺めは四季感が味わえる空間作りで室温にも気を配っていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人の居心地の良い場所で、御自由な時間を過ごしていただいたり、気の合う入居者様同士ふれあえるよう支援に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様や御家族の意見、御要望を取り入れ、安全性を考えた上で、居心地の良い居室作りに努めている。	入居者様、ご家族と相談しながら、その人の生活歴を活かした室内作りがなされていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すり、大きな目印等、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるよう支援に努めている。		